

経済学史

大森 郁夫 教授

1 担当教員の専門分野（研究領域）・現在の研究テーマ

18 世紀イギリス経済思想史を中心に、とくに「経済学の成立」にかんして D.ヒューム、J.ステュアート、アダム・スミス三者の理論的・思想的関連を研究してきた。最近は、同時期における貨幣数量説の歴史にかんする研究を進め研究書を刊行した。さらに、近代日本経済思想史にも関心を持っている。

2 指導方針

重商主義期から現代に至る経済学の発展過程におけるさまざまなトピックスの中から研究テーマを設定し修士論文作成のための研究指導を行う。選択可能な研究領域には、「経済学の成立」、「古典派経済学」、「新古典派経済学」、「オーストリア学派」、「ケインズ経済学」などの他に、「社会科学方法論」や「日本経済思想史」、近年研究の進展が著しい「進化経済学」や「新制度派経済学」といった異端の経済思想も含まれる。経済学の歴史への関心は、経済学の現状にたいする批判的問題意識にもとづいているので、自然と人間、社会・歴史および科学との関連を問う、より普遍的なテーマと結びつけて研究を進めることが重要である。

3 学生に対する要望・その他

経済学史研究にあたっては、理論的・思想的・歴史的な諸方法を駆使した多面的なアプローチが必要なので、社会科学の各方面にわたる基礎的な訓練がとくに大切である。とうぜん英文を読む機会が多くなる。さらに、自分の研究テーマを超えた経済学の歴史全般にわたる知識の習得と議論への参加が求められる。